

U.S. Indicators

米国 大幅な低下も景気の急減速は示さず(16年8月ISM非製造業・総合景気指数)

2016年9月8日(木)

～活動指数、新規受注が高水準から低下し全体を押し下げ～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM非製造業景気指数

	総合指数		ISM非製造業景気指数								
			活動指数	新規受注	雇用	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	輸入	在庫変動
15/11	56.6		59.4	57.9	56.0	53.0	51.5	50.0	49.5	51.0	54.5
15/12	55.8		59.5	58.9	56.3	48.5	50.0	51.0	53.5	49.0	53.0
16/01	53.5		53.9	56.5	52.1	51.5	52.0	46.4	45.5	46.0	51.5
16/02	53.4		57.8	55.5	49.7	50.5	52.0	45.5	53.5	55.5	52.5
16/03	54.5		59.8	56.7	50.3	51.0	52.0	49.1	58.5	53.0	52.5
16/04	55.7		58.8	59.9	53.0	51.0	51.5	53.4	56.5	54.0	54.0
16/05	52.9		55.1	54.2	49.7	52.5	50.0	55.6	49.0	53.5	54.0
16/06	56.5		59.5	59.9	52.7	54.0	47.5	55.5	53.0	54.0	55.5
16/07	55.5		59.3	60.3	51.4	51.0	51.0	51.9	55.5	53.0	54.0
16/08	51.4		51.8	51.4	50.7	51.5	49.5	51.8	46.5	50.5	48.0

(出所) ISM

**非製造業景気指数は
51.4と前月比4.1%
ポイント低下も50を
上回る**

16年8月のISM非製造業景気指数(季節調整値)は、51.4と前月比4.1%ポイント低下し市場予想の54.9を下回った。10年2月の50.8以来の低い水準だが、拡大縮小の分岐点である50を上回っており、非製造業部門は拡大を続けている。ISMは、8月の51.4という水準はGDPが前期比年率で+1%成長していたときの水準と指摘している。総合指数の算出項目をみると、入荷遅延が上昇した一方で、新規受注、活動指数、雇用が低下した。寄与度では、入荷遅延(前月比+0.13%ポイント)が押し上げ寄与となった一方、新規受注(前月比▲2.23%ポイント)、活動指数(前月比▲1.88%ポイント)、雇用(前月比▲0.17%ポイント)が押し下げ寄与となった。ただし、全ての構成項目が拡大縮小の分岐点となる50を上回っており、活動、新規受注、雇用も拡大を続けている。

拡大した業種数は、全18業種中11業種(7月15業種)と減少したが、過半数を上回っている。拡大した業種は、公益、不動産、宿泊・飲食サービス、金融・保険、教育サービス、医療・社会支援、公的部門、企業向けサービス、専門・科学・技術サービス、情報産業、建設業。一方、縮小した業種数は7業種(7月3業種)と増加した。運輸・倉庫、卸売業、小売業、芸術・娯楽・レクリエーションが縮小に転じたが、継続して縮小している業種は、その他サービス、鉱業、農林水産業にとどまった。鉱業は、原油価格下落の影響が残存しているほか、農林水産は早魃、大雨などが悪影響を及ぼしたと考えられる。

一時的な下振れ

8月の非製造業景気指数を大幅に押し下げた活動指数、新規受注の急低下の要因をみると、6、7月の水準が高かった反動のほか、8月は洪水被害をもたらすような大雨など天候が悪かったこと、米大手航空会社のシステムトラブルによって2100便程度の欠航や多数の遅延が発生したこと等が影響したと考えられる。また、企業の報告をみても、急激な景気の鈍化を示すようなコメントはみられない。これらを勘案すると、急低下は

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

一時的な動きであり、非製造業部門は拡大ペースを維持していると判断される。

I S M総合景気指数は 米景気の拡大基調の維 持を示唆

米国経済全体の景気動向を示す「I S M総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数で合成）」は、8月に51.2と7月の55.2から4.0%ポイント低下したが、7、8月平均では53.2と4－6月平均の54.7（16年1－3月期53.4、15年10－12月期56.1）から小幅低下にとどまっており、7－9月期の米国経済が緩やかに拡大していることを示唆している。

年後半には、ドル高や中国経済の減速傾向による需要抑制が続くもとの、雇用所得の増加や金利低下を受けた個人消費や住宅投資の拡大を背景に、I S M総合景気指数は早期に水準を回復すると予想される。

